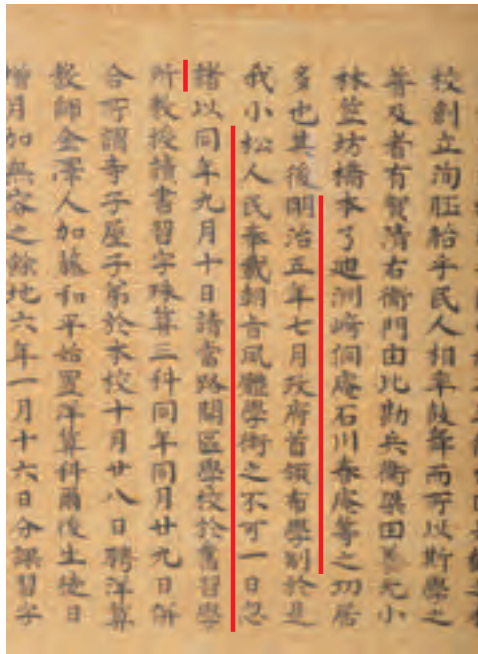


# 小学校の発足

明治五年（一八七二）、明治政府は、「邑<sup>むら</sup>ニ不学ノ戸ナク家ニ不学ノ人ナカラシメン」という学校設立の趣旨を国民に示して「学制」を公布。全国に五万三七六〇の小学校を創設するという壮大な計画を立案した。石川県は、学制公布直前に独自の公教育制度となっ



湯浅丈太郎撰 芦城小学校沿革志篇額の部分拡大(全体は近世29に掲載) 明治5年の学制頒布のことや、その直前に石川県が独自に創立した区学校在旧習学所に開設されたことが読みとれる。

た区学校を開設し、小松市には、小松町の習学所、今江村の願勝寺<sup>がしやう</sup>に設置した。しかし、明治六年八月、区学校は全て廃止され「学制」の小学校に移行。その年を期に、平野部、山間僻地<sup>へんきち</sup>を問わず、寺院や民家等を借りて、小学校が、次々と発足していった(表)。

入学年齢は六歳から一三歳までで、小学校(尋常小学)は、下等小学、上等小学の二等とされ、どちらも四年間学び、八年間で卒業する制度だった。また下等小学、上等小学はそれぞれ八級に分けられ、半年ごとの試験に合格して進級。不合格の場合は原級に止められた。学校に通うことが

簡易科小学校の月例調査表 尋常科・簡易科末佐美小学校 生徒調査の項目に在期生徒、日々出席生徒の平均数の欄があり、明治22年当時の子供たちの就学状況が窺える。明治22年石川県学事報告4月調査では尋常・簡易科併設小学校31校簡易科小学校単独69校となっている

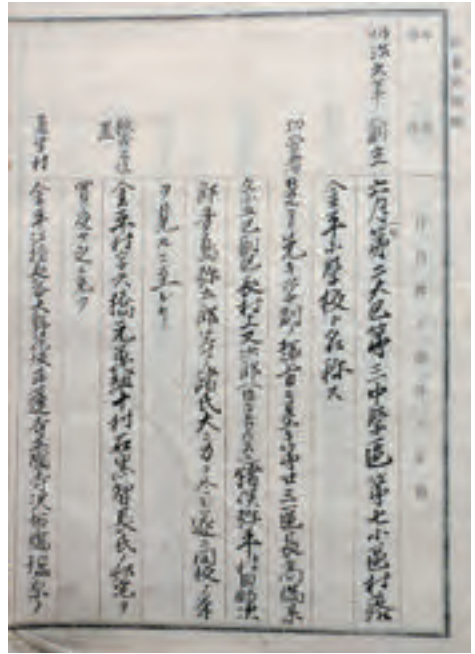
珍しく見られた時代、しかも、授業料は家庭の負担とされた。

明治六年、県の小学校数は一九三校、就学率は一九%で、全国平均の二八・一%を下回っていた。男子に比べ女子

小学校設立期の状況

現在校	設立時名称	学習場所	設立年月	男子数	女子数
芦城小学校	芦城小学校	習学所	明治5年9月	238	
	河南小学校	寺院	6年9月	296	
稚松小学校	稚松小学校	寺院	8年3月		222
	常盤小学校	寺院	8年3月		83
安宅小学校	安宅小学校	寺院	8年4月	158	
	安宅新小学校	民家	8年3月	65	
	安宅女児小学校	寺院	8年4月		65
	下牧小学校	民家	8年1月	45	2
犬丸小学校	長崎小学校	民家	7年4月	146	8
	伊多津小学校	民家	7年9月	59	4
	梯小学校	民家	8年11月	67	7
	野田小学校	民家	7年4月	40	18
	長野田小学校(長田)	民家	7年5月	45	5
★荒屋小学校	高田小学校	民家	25年		
第一小学校	若杉小学校	民家	8年4月	65	8
	沖小学校	民家	6年9月	47	3
	白江小学校	民家	6年9月	78	5
苗代小学校	園小学校	民家	8年3月	65	
	吉竹小学校	民家	6年10月	68	26
	南浅井小学校	民家	8年2月	55	3
蓮代寺小学校	北浅井小学校	民家	6年9月	58	
	蓮代寺小学校	民家	7年3月	30	3
	三谷小学校	神社	7年3月	55	42
向本折小学校	向本折小学校	民家	6年10月	65	4
今江小学校	今江小学校	校舎	6年3月	159	12
串小学校	串小学校	校舎	6年2月	57	23
日末小学校	日末小学校	民家	8年3月	138	2
符津小学校	符津小学校	寺院	8年3月	55	8
粟津小学校	粟津小学校	寺院	6年4月	35	2
木場小学校	木場小学校	民家	7年3月	56	8
★矢田野小学校	矢田野小学校	民家	9年4月		
	盡誠小学校(戸津)	不明	9年4月		
★月津小学校	月津小学校	寺院	7年1月		
★那谷小学校	那谷小学校	寺院	5年9月		
	滝ヶ原小学校	民家	5年		
国府小学校	鵜波小学校(鵜川)	民家	8年10月	66	
	小野小学校	民家	6年9月	99	
中海小学校	上麦口小学校	民家	7年5月	55	
	原小学校	民家	8年12月	40	
金野小学校	中村小学校	民家	6年9月	50	
	金平小学校	民家	6年9月	96	11
★西尾小学校	観音下小学校	民家	10年1月		
	啓発小学校(沢)	民家	8年5月		
	西俣小学校	民家	9年4月		
	池城小学校	民家	10年8月		
	菊溪小学校(尾小屋)	民家	9年4月		
	移風小学校(丸山)	民家	9年12月		
波佐谷小学校	高家小学校(新保)	民家	9年9月		
	波佐谷小学校	民家	6年9月	55	2
	上大杉小学校	民家	6年9月	55	1
東陵小学校	瀬領小学校	民家	6年9月	56	1
			昭和49年		
能美小学校	千代小学校	民家	明治8年2月	57	
	一針小学校	民家	6年12月	70	
	平面小学校	民家	7年4月	55	7

男女の人数記入のある学校は皇国地誌(石川県史資料近代編(3)(4))明治9年1月1日付け調査による。★印は江沼郡誌、学校沿革史、町村史等による。( )は所在場所。女子の就学数が少ないが小松町の就学数は実に多い。



金平小学校(現金野小)の沿革(金野小学校所蔵)「村落金平小学校ト名称ス」とあるが、当時、尋常小学のほかにも女児小学、村落小学、貧人小学、小学私塾等が地域の実情によって設置された。

この年を境に就学率は一気に約  
かではあるが全国の平均を超え、  
高めていった。明治九年、わず  
すこしづつ女子生徒の就学率を  
女子教育の奨励や施策の浸透が、  
年々々教育の必要性が認められ、  
学への関心は薄かった。しかし、  
学問は不要という思いから、就  
担い手であったことや、女子に  
の就学率が極めて低く、家事の

の短縮、文部省権限の強化、修業三年  
の簡易科小学校の設置、学校制度の変  
更や就学を奨励する施策等、時代の進  
展に合わせて近代学校制度の基礎を築  
いた。その間、日本帝国憲  
法の公布、学校での教育、  
語の奉読、修身科の重視等  
「立憲君主国」を国の姿と  
した教育が進められ、明治  
三十三年には授業料を無償  
に、明治四十年には、尋常  
小学校六年間を義務教育と  
して定めた。この年就学率  
は九七%を越え、それは、  
「学制頒布」以来の国民皆  
学という大きな目的が達成  
された時でもあった。

(竹下一郎)